

今月のトピックス

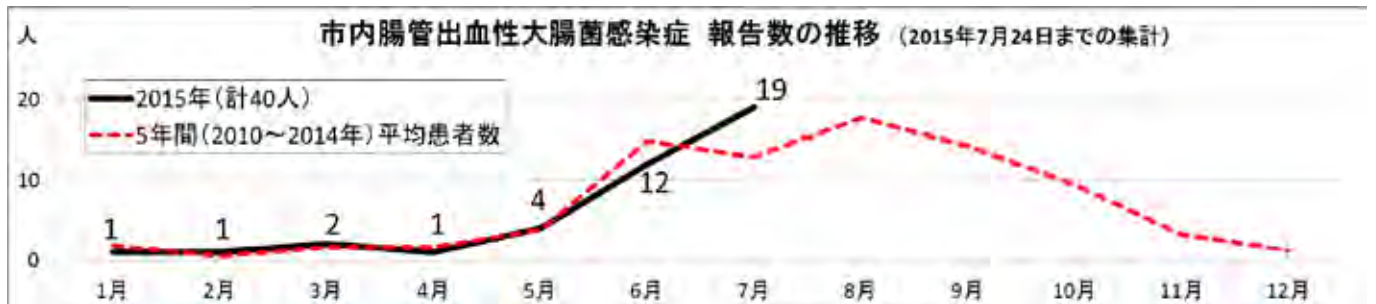
- ┆ 手足口病が過去 10 年間で最大の流行です。
- ┆ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。
- ┆ ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	26 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
パラチフス	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
A 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	7 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
レジオネラ症	5 件	水痘(入院例に限る)	2 件
アメーバ赤痢	6 件	梅毒	4 件
ウイルス性肝炎	1 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8 件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 26 件の報告がありました。6 月、7 月と急激に報告が増加しており、7 月は過去 5 年間の平均報告数を 7 月 24 日の時点で既に上回っています。今回報告された事例の中に、溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こした小児が、精肉店で購入した牛レバー(加熱用)を家庭において生で喫食していた事例がありました。レバーを生で喫食することは避け、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱)しましょう。また、他には家族内での 2 次感染事例もありました。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。今回は死亡例も出ており、本疾患は 10 月頃までは例年報告数が多く、注意が必要です。



- 2 パラチフス: 1 件の報告があり、渡航先(ミャンマー(ヤンゴン))での感染が推定されています。
- 3 A 型肝炎: 1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 4 デング熱: 2 件の報告があり、どちらも渡航先(ベトナムおよびタイ)での感染が推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 6 件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち 3 件は異性間性的接触(異性間 2 件、詳細不明 1 件)、もう 1 件は経口感染、残る 2 件は感染経路等不明でした。
- 7 ウイルス性肝炎: 1 件の C 型肝炎の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 9 クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型 CJD の報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1 件の報告があり、創傷感染が推定されています。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 2 件、その他 2 件の報告がありました。すべて国内での感染で、4 件が同性間性的接触、2 件が同性間または異性間、1 件が異性間による感染でした。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症: 8 件(成人例 5 件(血清型判明は 1 件のみで 3 型)、幼児例 3 件(血清型 24F 型 1 件、12F 型 2 件))の報告がありました。そのうち幼児では全例予防接種歴(7 価 4 回 2 件、7 価 3 回 1 例)

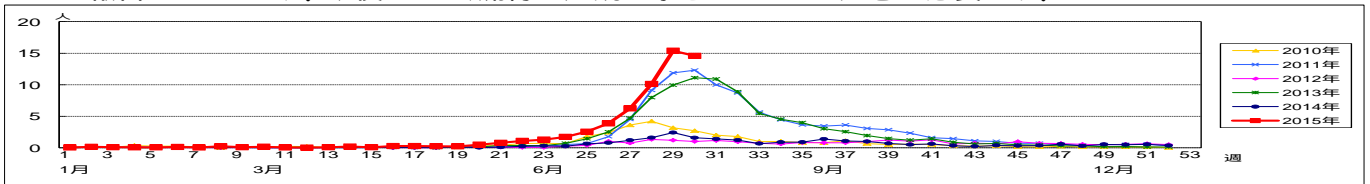
回 1 件) がありました。成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。

- 13 **水痘(入院例に限る)**: 2 件の検査診断例の報告があり、1 件は 3 歳で予防接種歴 1 回有り、もう 1 件は 30 歳代で予防接種歴不明でした。
- 14 **梅毒**: 早期顕症梅毒 期 4 件の報告がありました。すべて国内での異性間性的接触(異性間性交 3 件、経口 1 件)による感染が推定されています。
- 15 **風しん**: 幼児の検査診断例が 1 件(ワクチン接種歴 1 回有り)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

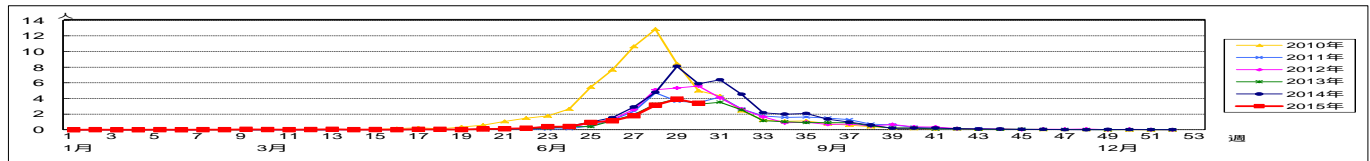
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 26 週	6 月 22 日 ~ 28 日
第 27 週	6 月 29 日 ~ 7 月 5 日
第 28 週	7 月 6 日 ~ 12 日
第 29 週	7 月 13 日 ~ 19 日
第 30 週	7 月 20 日 ~ 26 日

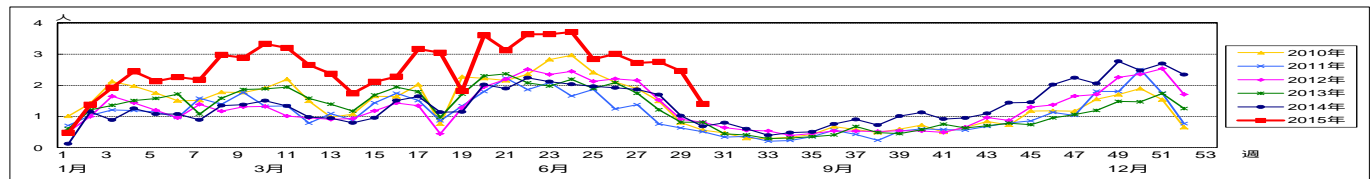
- 1 **手足口病**: 今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となっています。市内の患者からは、コクサッキーウイルス A16(CA16)が検出されていましたが、7 月以降コクサッキーウイルス A6(CA6)が検出されています。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1~2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。今後しばらく流行の継続が予想されるので注意が必要です。



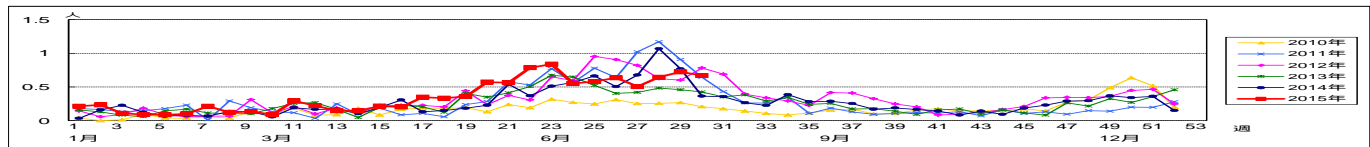
- 2 **ヘルパンギーナ**: 第 30 週は市全体で定点あたり 3.38 となっており、前週よりやや低下したものの、今シーズンの流行のピークを迎えていると考えられます。しばらく流行が続くことが考えられ、注意が必要です。



- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 30 週は市全体で定点あたり 1.40 と、前週に比べて減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。



- 4 **咽頭結膜熱**: 第 30 週は市全体で定点あたり 0.67 と、やや報告の多い状態が続いています。



- 5 **性感染症**: 6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 20 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 3 件、女性が 4 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 4 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 26 週 1.00、第 27 週 0.33、第 28 週 0.00、第 29 週 1.00、第 30 週 0.00 となっています。細菌性髄膜炎は第 26 週に 1 件報告(原因菌不明)がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 6 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>